

事業所名 よつばハーモニー 山の街

支援プログラム

作成日 令和6年10月1日

| | | | |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 法人（事業所）理念 | 誠実・愛・幸運・希望 4つの言葉が合わさり「四つ葉」を表します。 児童並び保護者に対し、誠実に対応し、愛を持って接し、幸運を運べるよう、希望を持って、精神誠意ご支援をさせていただきます。 | | |
| 支援方針 | 各自の個別支援計画書に則り、無理強いさせず児童が楽しく取り組めるよう日々支援内容を精査し、個別療育、集団療育それぞれに取り組みます。 | | |
| 営業時間 | 9時00分から18時00分まで | 送迎実施の有無 | あり |
| 支 援 内 容 | | | |
| 五 領 域 | 健康・生活 | ①健康状態の把握・・・来所時の体調チェック（発熱の有無・表情確認・怪我等確認）を行い、利用中に変化がないか観察を行う。 ②健康の増進・・・来所持の手洗いうがいの取行、トイレ後の手洗いへの誘導、定期的にクッキングを行い食に対する興味や関心向上を狙う。 ③リハビリテーションの実施・・・鉛筆、箸の持ち方トレーニングから、進学時の面接練習まで身体的社会的訓練を行う。 ④基本的な生活スキルの獲得・・・靴を脱ぎ所定の場所に収納する事や、整理整頓を意識できるように遊びの中にトレーニングを入れる。 ⑤構造化等により生活環境を整える・・・時間ごとの活動をカードやホワイトボードに明記し視覚からも時間に応じた切り替えができるように支援する。 ⑥生活におけるマネジメントスキルの育成・・・自らの思い考えを言葉に出し自分の感情をコントロールできるように集団個別問わず職員側が「聞く」姿勢を常に見せ自分でマネジメントできるように支援する。（道徳のお話を実際に演じ体験するなどを行う） | |
| | 運動・感覚 | ①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上・・・トランポリン、ボルダリング、平均台等を活用し筋力や大幹の向上を目指すトレーニングを遊びの中に導入する。 ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用・・・個別に必要な補助装置が異なるので各自に合った手段を活用し向上に努める。 ③身体の移動能力の向上・・・外出イベントなどで公共交通機関を使用し移動能力向上を図る。 ④保有する感覚の活用・・・視覚、聴覚、触覚、嗅覚、などの感覚を刺激する遊びを行う。色カルタや箱の中身は何だろうゲームなど（感覚過敏の子には配慮した内容） ⑤感覚の補助及び代行手段の活用・・・眼鏡、補聴器などの補助機器の正しい使い方を伝え周りにも周知する時間を作る。 ⑥感覚の特性（感覚の過敏鈍麻）への対応・・・1人ひとりが過ごしやすい配慮した環境設定を常に行う。 | |
| | 認知・行動 | ①認知の特性について理解と対応・・・1人ひとりの認知の特性を理解するよう全職員で共有研鑽を積み、利用児童が外部から入ってくる情報を適切に処理できるよう創作・制作活動を通じて支援する。こだわりが出過ぎないように必要所で意識の誘導を行う。 ②対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の取得・・・音楽に合わせ体を動かす事や、ナンバータッチなどのビジョントレーニング、ブロックを用いた創作活動などを行う。 ③行動障害への予防及び対応・・・不安定になったり不安をまぎらわすために不適切な行動が出たりしないよう、事前に行動や内容等の説明をし理解をしてもらえるよう支援をし、どんな時に行動障害が起きるかを知り予防的な行動を行う。 | |
| | 言語 コミュニケーション | ①コミュニケーションの基礎的能力の向上・・・表情や身振りなどで意思のやりとりが行えるようジェスチャーゲームや表情気持ちカードを使用したゲームなどを行う。 ②言語の受容と表出・・・簡単なプレゼンテーションを行うゲームを活動に取り入れる。相手の言葉考えを聞き、自分の考えを相手に伝えるトレーニングを行う。 ③言語の形成と活用・・・あいさつなどの体系的な言語を身に付けるため、声かけ支援から始め自発的に行えるようになるよう支援する。 ④人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得・・・集団で同じプログラムに取り組む「集団活動」を1日の終わりに行い、他者との関わりを持ち経験を積む。 ⑤コミュニケーション手段の選択と活用・・・伝言ゲームや絵しりとり、無言ゲームなどの遊びの中で様々なコミュニケーション方法がある事を学ぶ。 ⑥状況に応じたコミュニケーション・・・生活の中で起きそうな物事を想定しロールプレイングを行う。 ⑦読み書き能力の向上・・・学校の宿題を活用し読み書きをサポート支援したり、手先トレーニングの一環として文字記号図などを書く支援を行う。絵本の読み聞かせを児童に行ってもらうなど文字を読む時間を設ける。 | |
| | 人間関係 社会性 | ①アタッチメント（愛着）の形成と安定・・・児童にすぐに寄り添える環境作りを徹底し、安心感信頼感を育む支援を行う。 ②情緒の安定・・・不安定な気持ちや痙攣に繋がった際などの後に振り返りを可能ならば行い、自身の気持ちの振れ幅を認識していけるよう支援を行う。 ③他者との関わり（人間関係）の形成・・・集団活動のプログラム内で相手の考えを理解し行動に移す遊びを取り入れる。色集めゲームや無人島脱出ゲームなど。 ④遊びを通じた社会性の促進・・・ごっこ遊びや模擬店遊びなどを行いルールを守った遊びを提供していく。 ⑤自己の理解と行動の調整・・・「自分ノート」を作成し自分の得意な事苦手な事を考え、気持ちのコントロールに活用する。 ⑥仲間作りと集団への参加・・・毎日行う集団活動に、より参加しやすくなるよう事前の声かけ説明や視覚からの説明などを行う。 | |
| 家族支援 | モニタリングとは別にご家庭内、事業所内において面談を行い、日々の支援から気づいた事や共有できる事などを保護者（きょうだい児）へ伝え、保護者（きょうだい児）からの気づき、悩み、相談などを聞き助言支援する。 | 移行支援 | 学年が変わる学校が変わるなどの節目だけではなく、長期休暇前後なども学校や学童の担当職員と情報の共有連携を行いデイサービスでできる事などの確認を行う。 |
| 地域支援・地域連携 | 各学校への訪問、授業参観や3者面談への参加、保健師との連携などを行っている。 | 職員の質の向上 | 積極的な外部研修への参加、月に1度以上の内部研修を行っている。 |
| 主な行事等 | 毎月イベントを開催する。季節ごとのイベントはもちろん、事業所外活動（遠足、工場見学、社会見学、交流会）も積極的に行う。よつばハーモニー3事業所内での合同イベントの開催や、他社他事業所との交流合同イベントも行う。 | | |